

製品安全データシート

フェニルエチルアルコール

作成 : 2019/7/22  
改訂 : 2022/3/28

● 項目1 化学品及び会社情報

化学品の名称  $\beta$ -フェニルエチルアルコール、beta.-Phenylethylalcohol、Benzeneethanol  
会社名 Harmony Organics Pvt.Ltd.  
住所 126, East block, Fortune Estate,  
Near Akashwani, Pune - Solapur Road, Hadapsar, Pune - 411 028

担当部署  
担当者(作成者)  
電話番号 +91-(0)-20 64014765  
FAX番号 +91-(0)-20 65209021  
メールアドレス [ssaniay@harmonyorganics.in](mailto:ssaniay@harmonyorganics.in)  
緊急連絡先番号 +91-8-600100631

販売代理店 サンケミカル株式会社  
住所: 東京都中央区日本橋小伝馬町2番4号 三報ビルディング  
電話番号 03-3661-6681  
FAX 03-3661-7055  
メールアドレス yano@sun-chemical.co.jp  
HP <http://www.sun-chemical.co.jp/>

推奨用途及び使用上の注意  
フレグランス、フレーバー原料、医薬中間体、保存剤

★ 項目2 危険有害性の要約

GHSの分類  
物理化学的危険性: 分類できない  
健康に対する有害性:  
急性毒性(経口) 区分4  
眼に対する重篤な損傷・眼刺激性 区分2A  
環境に対する有害性:  
水生環境有害性 短期(急性) 区分2

分類	内容
区分1~4	数字が小さい方が危険・有害性が高い。1(危険)>4(比較的安全)
区分に該当しない	数字で表示される区分より安全性が高い。
分類できない	分類に有効なデータが無く、有害なのか安全なのか、分からない。
分類対象外	この項目には無関係な製品。例えば、固体の製品では「自然発火性液体」の項目で、分類対象外になる。

● GHSのラベル要素

● 絵表示又はシンボル



● 注意喚起語

警告

● 危険有害性情報

H319 強い眼刺激  
H302 飲み込んだら有害

● 注意書き

【安全対策】

P280 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。  
P264 取扱後はよく手を洗うこと。  
P305+P351+P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。  
次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P337+P313 眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。  
P302+P352 皮膚に付着した場合: 多量の水と石けん(鹼)で洗うこと。  
P361 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。  
P404 密閉容器に保管すること。  
P501 内容物/容器を条令、法令、国際規制に従い、内容物と容器を破棄すること。

項目3 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名又は一般名  
別名

工業純品

フェニルエチルアルコール

β-フェネチルアルコール、beta.-Phenylethylalcohol、  
Benzeneethanol

化学特性

CAS番号

60-12-8

成分及び濃度又は濃度範囲(含有率)

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

(3)-1032

GHS分類に寄与する不純物及び安定化添加物

物質名(REACH)	CAS/EC	構成	備考
フェニルエチルアルコール	60-12-8 / 200-456-2	>99.5	(REACH登録番号:01-2119963921-31-0010)

▲ 項目4 応急処置

吸入した場合 吸入した場合、被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。  
気分が悪い時は、医師に連絡すること。  
汚染された衣類をすべて脱ぐこと。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。

眼に入った場合 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。  
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合 飲み込んだ場合、口をすすぐこと。  
飲み込んだ場合、気分が悪い時は、医師に連絡すること。

急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

深刻な眼の刺激。涙、赤み、腫れ、視力障害  
胃腸の刺激、吐き気、嘔吐、下痢、頭痛

詳細な徴候及び症状は、項目11－有害性情報に記載する

応急処置をする者の保護 無し  
医師に対する特別な注意事項

毒劇物の場合、解毒剤 非該当

項目5 火災時の措置

職場のあんぜんサイトから引用

消火剤 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類

使ってはならない消火剤 データ無し

火災時の措置に関する特有の危険有害性 引火性の高い液体および蒸気。  
消火後再び発火するおそれがある。  
火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
熱を持っている場合、荷物を移動させないこと。  
安全に対処できるならば着火源を除去すること。

消火を行う者の保護 適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

---

## 項目6 漏出時の措置

人体に対する注意事項、  
保護具及び緊急時措置

漏出個所では、関係者以外立ち入り禁止とする。  
適切な保護具を着用し、清掃すること。  
保護具未着用での容器や、漏出物へ触らないこと。  
換気を充分に行うこと。  
多量に漏出した場合は、消防庁など、権威ある自治体に報告すること。

環境に対する注意事項

環境に放出しないこと。  
漏出を防ぐ。  
下水に流さない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

多量の場合：周囲が安全なら物質の流れを止める。  
漏出物をダイクで囲う。広まりを抑える為に、ビニールシートで覆うこと。  
ひるい石、乾燥砂、土で吸収して容器に保管すること。  
下水に流さないようにし、取り去った後の場所を水で流す。

少量の場合：布やフリースで吸収し、漏出場所を清潔にする。

二次災害の防止策

漏出した物質は再使用しないこと。

---

## ▲ 項目7 取扱い及び保管上の注意 取扱い

技術的対策  
(局所排気、全体換気)

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、  
保護具を着用する。  
「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行なう。

安全取扱注意事項

眼に触れないこと。  
飲み込まないこと。  
取扱時は禁煙、禁飲食。  
裸火、熱に近づけないこと。  
十分な換気を行うこと。  
適切な保護具を着用すること。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

厳しく監視すること。容器は密閉すること。汚染された衣類は直ぐに脱ぐこと。  
廃棄物を下水に流さないこと。

保管

安全な保管条件

高温にしないこと。  
産業衛生を遵守すること。

近づけてはいけないもの

火、熱、直射日光

安全な保管保管包装材料

元の保管容器

---

## ▲ 項目8 暴露防止及び保護措置

許容濃度等

日本産業衛生学会(2005年版) 未設定  
ACGIH(2005年) 未設定

管理濃度

アース線の設置を行うこと。裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけないこと。  
引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。  
粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用すること。  
呼吸器官を保護、もしくは局所、全体換気の管理で作業を行うこと。  
厳格な衛生管理の下で作業し、容器は密閉し、作業中の飲食と喫煙は避けること。

設備対策

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。  
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。または換気を行うこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

保護具

呼吸用保護具

適切な呼吸器の保護具を着用すること。

手の保護具	適切な手の保護具
眼の保護具	化学品用ゴーグル、顔を覆う保護具
皮膚及び身体の保護具	防護服
特別な注意事項	データ無し

---

項目9 物理的及び化学的性質 オリジナルSDSより

物理的状态	液体
色	無色透明
臭い	アロマ、バラ臭
融点・凝固点	-27°C @ 1気圧
沸点、初留点及び沸騰範囲	220°C @ 1気圧
可燃性	非該当
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	データ無し
引火点	102°C
自然発火点	410~442°C @ 100.9~101.9 kPa (ECHAより)
分解温度	データなし
pH	データ無し
動粘性率	データ無し
溶解度	データ無し
n-オクタノール/水分配係数	1.58
蒸気圧	1 mm Hg
密度及び/又は相対密度	1.018
相対ガス密度	4
蒸発速度	データなし

その他データ

---

● 項目10 安定性及び反応性

反応性	通常の使用保管では安定。
化学的安定性 危険有害反応可能性	通常は安定。 強酸に強い発熱反応があり、爆発の危険性が上昇する。 アース設置を行うこと。
避けるべき条件 (静電放電、衝撃、振動など)	裸火、熱に近づけない事。水を含んだ物質を近づけない事。 引火点よりも温度が高い場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。 粒子状の場合、耐火、耐爆発の設備を使用する事。
混触危険物質	可燃物、酸化剤、強酸、金属、水、湿気、アルミニウム、鉄
危険有害な分解生成物 その他	燃えた場合、一酸化炭素と二酸化炭素を発生させる。 一酸化炭素を含む有毒ガス

---

★ 項目11 有害情報 オリジナルSDSより  
急性毒性

曝露経路	基準	方法	値	曝露時間	被検体	雌雄	値の決定
LD50	けい皮		2535mg/kg		ウサギ		
LD50	経口		1603.3mg/kg				

皮膚腐食性及び皮膚刺激性  
長期の接触により、一時的な刺激がありうる。

眼に対する重篤な損傷又は眼刺激性  
刺激がある。ウサギの角膜

呼吸器感作性又は皮膚感作性  
感作性無し。マウス

生殖細胞変異性  
生殖細胞変異性になる物質を0.1%以上含んでいない。  
AMES試験で陰性

発がん性  
IARCで発がんとされる物質を含んでいない。

生殖毒性  
データ無し

特定標的臓器毒性、単回曝露  
データ無し

特定標的臓器毒性、反復曝露  
データ無し

吸引性呼吸器有害性  
データ無し

---

項目12 環境毒性情報  
生態毒性  
海洋生物に有害

残留性・分解性  
データ無し

生体蓄積性  
人体の蓄積する可能性は低い。

土壤中の移動性  
土壤中の移動する可能性は低い。Log Kow値が低い為。

オゾン層への有害性  
データ無し

---

▲ 項目13 破棄上の注意

残余廃棄物

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

汚染容器及び包装

容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

---

項目14 輸送上の注意

国際規制  
国連番号  
品名(国連輸送名) 非該当  
非該当

国連分類  
(輸送における危険有害性クラス) 非該当

容器等級  
海洋汚染物質  
(該当・非該当) 非該当  
非該当

MARPOLによるばら積み輸送される液体物質  
(該当・非該当) 非該当

国内規制  
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

消防法の規定に従うこと。

応急措置指針番号

非該当

その他

---

項目15 適用法令

法令の名称を含む関係法令情報

化管法  
安衛法

非該当

2022年3月 通知表示対象物質 非該当

2025年4月 通知表示対象物質 該当

毒劇法

非該当

火薬類取締法

非該当

高圧ガス保安法

非該当

消防法

消防法 第2条危険物第4類第3石油類非水溶性液体(2,000L)

化審法

既存化学物質

船舶安全法

非該当

航空法

非該当

パーゼル法

第2条特定有害廃棄物等(0.1%重量%以上含む物)

外為法

輸出令別表第2の35の2項(0.1%重量%以上含む廃棄物)

港則法

キャッチオール規制

非該当

---

項目16 その他の情報

安全上重要であるが、これまでの項目名に直接関係しない情報

引用文献

オリジナルsds 2019年2月5日  
独立行政法人 製品評価技術基盤機構 NITE  
職場のあんぜんサイト  
2018年版 16918の化学商品  
ECHA 2-phenylethanol

その他

注意:

- ・危険有害性の評価はかならずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。
- ・この製品安全データシートは、当社の製品を適切にご使用いただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の実用性を対象としたものです。
- ・本製品は、この製品安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱ってください。
- ・ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の知見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保障もするものではありません。また法令の改正及び新しい知見に基づいて改訂されることがあります。

---

赤字

必須情報

★

リスクアセスメント必須事項

青字

可能なら記載する情報

●

ラベルに記載する情報

黒字

無くて良い情報

▲

安衛法ラベルの注意書きの項目

色付けはGHS対応ガイドライン準拠

(但し、ラベルに全て載せる必要はない)

(2012年6月 日化協)